

砂子山（いさごやま）と徳光院 葺合町



砂子山は別名円山ともいわれ、この付近から弥生時代中期のものと思われる土器が多数発見された。いわゆる布引丸山遺跡である。大正年間より何度か遺物が出土し、それら出土した弥生式土器を故小林行雄博士は弥生時代中期のものとして鑑定し、それ以来神戸を代表する遺跡の一つとなっているが、正式な発掘調査が行なわれておらず詳細は不明である。また、この砂子山は生田神社が最初に祀られた場所だという。

砂子山の北側の麓に川崎造船所の創業者、川崎正蔵の墓所と川崎家建立の徳光院がある。徳光院は1906（明治39）年に川崎正蔵が建立したもので臨済宗天龍寺派の寺院である。本尊は鎌倉時代作と伝えられる十一面観世音菩薩。なお、境内にある多宝塔は1971（昭和46）年に国の重要文化財に指定されている。この多宝塔は、明王寺（垂水区名谷町）の境内にあったものを正蔵が1900（明治33）年に譲り受け、布引川崎邸に移築。1938（昭和13）年にここへ再移築した。この塔の木組の一部に「文明5年」（1473）の銘がある。また、多宝塔内に安置されている持国天・増長天の二像（いずれも平安時代作）は県の重要文化財に指定されており、その他塔内には薬師如来像（1476〈文明8〉年作）もある。

広大な境内にはその他、朱塗の山門（1907〈明治40〉年に播州より移築）、鐘楼（1631〈寛永8〉年に伽耶院〈三木市〉に建立されたものを1907年に移築）、弁天堂など多くの建造物や石造品がある。



国重要文化財 多宝塔

場所：神戸市中央区葺合町布引山 2-3

出典：「神戸歴史トリップ」道谷 卓 著

砂子山（いさごやま）と徳光院 葺合町

●「葺合町（ふきあいちょう）」の由来

中世、この地域に「葺屋荘」という荘園があった。一説ではこの地が葺屋と呼ばれる区域に入っていた時期があり、この「葺」がよく似た「葺」という字に誤写されたのではないかとされている。そして、葺屋は「吹き屋根」に通ずるので「葺合」に改められたというが定かではない。